

からだのとしょかん通信

※分かりやすい医学情報を集めた「からだのとしょかん」は
新型コロナウイルス感染症対策のためしばらく休館中です。
今号は入退院支援と患者サポートセンターについて紹介します。

2021年6月号

入退院支援について

患者サポートセンター 主任看護師 大澤 知佳

もし、入院することになった場合、「何を準備したらいいのだろうか?」とか、「退院してからもこれまでのように生活できるのだろうか?」とか、心配になることがありますよね。そんな不安や心配を少しでも和らげるようにすることが入退院支援です。

この入退院支援の必要性が求められるようになった背景には、厚生労働省が推進している地域包括ケアシステムがあります。これは住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムのことで、地域で暮らす高齢者の方々が必要なときに必要な支援を受けながら住み慣れた地域で生活していけることを目指すものです。



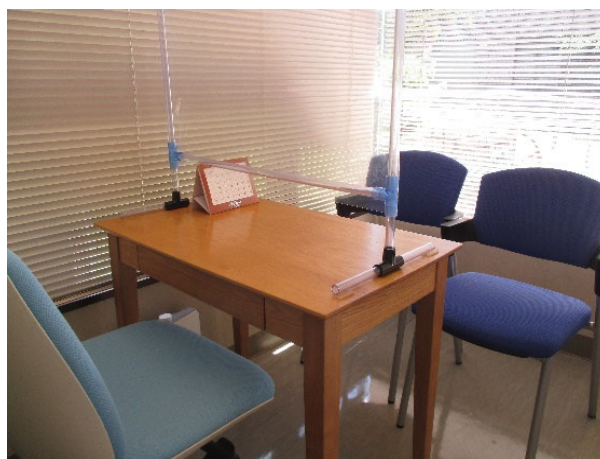
当院では患者サポートセンターを筆頭に病棟スタッフ・関係部署のスタッフと協働しながら入退院支援を行っています。まず、入院が決定した患者さんには入院支援センターでスタッフと面談をしていただき、入院の際に必要な物品の説明や、利用されている介護サービスなどについて聞きとりをさせていただきます。その際にいただいた情報は、事前に入院病棟や患者サポートセンターと情報共有をし、患者さんの入院生活のサポート体制を整えます。入院されてからは医師や病棟の看護師をはじめとしたスタッフと患者サポートセンターが協力して、患者さんが安心して退院できるよう支援させていただきます。お体の状態に合わせて、介護保険サービスへつなげたり、訪問看護や訪問診療などの導入もお手伝いしたりしております。新型コロナウイルス感染症の中ですが、必要な場合には感染対策をした上で、関係機関のスタッフに来院していただき、カンファレンスなども行っています。

また、患者サポートセンターでは入院中の患者さんだけでなく、外来通院中の方にもご利用いただけます。ご自宅での生活の中で介護サービスが必要になってきた、訪問看護を利用するにはどうしたらいいか、などのご相談がありましたら、お気軽に患者サポートセンターへお問い合わせください。



↑ 患者サポートセンター

→
面談スペース



患者サポートセンターのご紹介

患者サポートセンター 副センター長 櫻井圭美

地域連携・相談支援センターは、令和3年4月1日に「患者サポートセンター」と名称を変更いたしました。新潟県立病院の地域連携および相談支援部門が一律に「患者サポートセンター」へ名称変更したことによるものです。

がんセンターでは、入院支援部門（入院支援センター）が地域連携・相談支援センターに加わり、入院支援部門（入院支援センター）、がん相談部門、退院支援部門、地域連携部門の4つの部門が「患者サポートセンター」として編成されました。入院前から退院後までトータルで患者さんをサポートさせていただきます。

入院支援センターでは、入院生活がスムーズに送れるように患者さんの体調やご自宅での生活をお伺いし、これからの入院生活の説明をします。がん相談部門は治療中の全ての心配事のご相談にのります。経済的なこと、仕事のこと、ご家族のことなどもご相談ができます。入院後は退院支援部門と地域連携部門が協同してスムーズに退院できるように、早期からお手伝いをいたします。介護保険や訪問看護師さんを利用する生活支援や退院調整などを行います。地域のケアマネージャーさんや訪問看護師さん達とも顔の見える関係を大切に地域と連携していますので、安心してお任せください。

患者さんの療養生活を支援していきますので、これからも患者サポートセンターをよろしくお願いいたします。



ヘルスリテラシー ～健康情報 それ、本当？～

図書室

インターネットやテレビ番組、新聞や書籍などで健康情報を目にする機会が多いと思いますが、信頼できる情報をどう見抜いたらいいのでしょうか。

情報の信頼性を見極めるヒント、「い・な・か・も・ち」をご紹介します。

「い」…いつ？ 情報が古くなっていないか？ 出版年、記事の作成日を確認しましょう

「な」…なんのために？ 商品の宣伝の可能性も…前書きや後書き、ウェブサイトの運営目的を確認しましょう

「か」…書いた人はだれ？ 匿名情報に要注意！ 筆者の専門分野、出版社やウェブサイトの運営者を確認しましょう

「も」…元ネタはなに？ 個人の感想や意見の可能性も…出典、情報源の記載があるか確認しましょう

「ち」…違う情報と比べた？ 1つの情報だけで判断せず、他の人が書いた記事と比較してみましょう

これはあくまでヒントであり、すべての人に必ず当てはまる情報はありません。「い・な・か・も・ち」をチェックしたからといってすべて正しいものでもありません。

悩みごとや困りごとは、医師や専門家の意見を求めるようにしましょう。

（出典：中山和弘.ヘルスリテラシー入門,栄養と料理 2018,84(10),p9-21）